

事務ヲ擔任スル官吏ハ暫ク置キ此事業ノ中心ト稱スヘキ者ハ薩刺瓦社中ナリトスコミナリ スライツ薩刺瓦人種ニ屬スル者ヨリ成立此社員ハ慈仁アル者ナリ而シテ約子此社中ニ三種ニ分ツ即チ墨斯科聖彼得堡及ヒキイツ幾富ノ社中是ナリ西邦人ハ此社中ヲ誤認シテ多少改革ヲ主張スル黨派ナリト信セシカ決シテ然ルニアラザルナリ露國ノ改革黨ナル者ハ其族耕生國人種及ヒ宗教ニ關係スル如キハ舉ナ之ヲ既往ニ屬スル兒戲ナリト看做シ而シテ露國ノ盛大ヲ企圖スルヨリハ却テ皇帝ノ權勢ヲ破壊シ又々宗教ニ向テ一擊ヲ逞フセント欲スル者ナリ薩刺瓦黨ハ全ク之レニ異リ慈仁正直ニシ且ツ其社員ハ皆チ同教派ノ者ヨリ結成セラレタリ而シテエルゼゴツキ黑西語ニエルセゴビナト云フ南ボスニ一ノ未タ反セザル時ニ地方ナリ而シテ歐羅巴土耳其格ニ屬ス

在テ此社中ノ者(社中ニ貴族ノ婦人多ク加入セリ)ヨリ其國ニ往スル薩刺瓦種族ノ者ヲ扶助セシカ爲メニ生産ノ資金ヲ送致シ或ハ布加利ノ子弟ヲ露國ニ於テ教育シ或ハ土耳其及ヒ澳地利ノ地方ニ存スル同宗ノ寺院ニ祭器其他ノ補助ヲ送致セリ又々此社員ニハ往々外邦ニ住スル薩刺瓦人ノ爲メニ其君主ニ不滿ヲ抱ク者アリ遂ニ其國人ヲシテ露國ヲ見ルヲ猶ホ一國ノ保護人ノ如クナラシメタリ然レモ此等ノ事業ハ惣テ公然執行シタルモノニシテ夫ノ一家ノ私事ヲ辨スル如ク隱密ニ集會シテ執行シタルモノニ非ルナリ

遊徒ノエルゼゴツキ黑西語ニ起リ次テ蒙的尼及ヒ塞爾維人モンテグロ替土國ノ反スルニ及ノテ蒙的尼及ヒ塞爾維ノ土人ハ薩刺瓦社中及ヒ

其他露國ノ同胞ニ救援ヲ請求セシガ其檄文ハ寺院ニ於テ
 展讀公布セラレ又々新紙ニ載セテ世上ニ通知シタルヲ以
 テ大ニ露國ノ人民ヲシテ感激奮起スル所アラシメタリ然
 レトモ其能ク露人ヲシテ奮起スル所アラシメタリト稱ス
 ベキモノハ布加利ヲ虐遇シタル土國ノ罪惡ナリト謂フ可
 シワラス氏ノ説ク所ニ據レハ露國ノ農民ハ東邦論ニ因テ
 生シタル紛擾ヲ知ラス又々土耳其人ヲ誹議スヘキ事情即
 チ布加利人民ニ重税ヲ課シ其判事ヲ廢シ其軍務ヲ除キタ
 ル等ノ如キ惡事アリト雖モ更ニ之ヲ願ルコトナシ且ツ假令
 ヒ農民ヲシテ此等ノ事情ヲ聞知セシムルモ元來農民ハ軍務
 ヲ逃ルハ喜ヒ恰モ特權ヲ得タルモノノ如ク看做セリ而
 シ其判事ヲ廢シ及ヒ重税ヲ課スル等ノ如キハ露國ニ於テ

既ニ久シク慣行セラレタルヲ以テ更ニ之カ爲メニ奮激ス
 ル者ハ絶テ之アルコトナシ然レモ同宗派ノ村落ヲ破壊シ奴
 隸ヲ賣買シ及ヒ回々教ノ蠻民ヲ率非テ基督教徒ヲ殺戮シ
 タリトノ風評ハ遂ニ農民ヲシテ大ニ憤怒セシメタリ且ツ
 農民ノ祖先ハ漂泊流離ノ蠻民ヲ驅逐シテ漸ク其土ニ安ス
 ルヲ得タルヲ以テ其氣風ハ今ニ及ンテ猶ホ未タ全ク農民
 ノ胸臆ヲ脱却セズ故ニ多惱河ノ沿岸ニ於テ其同胞ナル薩
 刺瓦人ノ窘厄ニ罹カルヲ坐見スルニ忍ビズ奮然走テ其救
 援ニ赴ケリ而シテ其救援ニ赴キタル夥多ノ露人ハ土耳其
 ニ反シタル黨與ニ加ハリ殊ニ塞爾維ニ入りテ各其業ニ就
 キ器械軍費ノ論ナク皆ナ其軍ヲ援ケタリ此時ニ當リ露國
 人民ノ精神ハ頻リニ興發シ遂ニ土耳其ト抗戦スル鯨波ハ

到ル處ニ聞クニ至レリ
 此際ニ臨テ露國政府ハ何事ヲナセシ乎又々如何ナル方向
 ナ求メタル乎ヲ説カノニワラス氏ノ其書ヲ著述シタルハ
 露國ノ未タ土庭ニ向テ開戦ヲ公告セザル以前ニ在リ而シ
 其説ニ曰ク露帝ハ戰鬥ヲ好マズ且ツ務メテ戰鬥ヲ避ク可
 シ而シテ露國ノ王權ハ今日ニ在テハ既ニ昔日ノ如ク堅牢不
 拔ナルモノトナリタルガ故ニ亞歷山勸二世ハ其内國政事
 ノ方向ヲ轉スルハ戰鬥ヲ以テセザルモ更ニ不可ナル所ナ
 キヲ知リシハ疑フ所ナジ又々他ノ一點ニリ觀察スルモ露
 帝ハ其自ラ施行シタル改革ヲシテ其結果ヲ得セシメント
 欲セバ久シク國內ヲシテ安寧平和ナラシムルニ非レバ到
 底其目的ヲ達スルヲ能ハザル可シ殊ニ其財政及ヒ軍旅ハ

未タ全ク其成功ヲ見ズ故ニ平和ヲ維持スルノ外ニ施スヘ
 キノ策ナカル可シト然レモワラス氏ハ既ニ露帝ノ意見ヲ
 推論シタル後チ更ニ一語ヲ附シテ曰ク當時無上ノ權利ヲ
 有スル此君主ト雖モ一國ノ民情ヲ顧ミザルヲ得ザルノ時
 アル可ク且ツ著名ナル佛蘭西ノ改革者ガ亂人ニ奉誡セラ
 レテ余ハ汝等ノ主君ナリ故ニ汝等ノ意見ニ從ハザルヲ得
 ズト言ヒタル如ク其臣民ノ熱心ニハ枉ケテ從ハサルヲ得
 サル場合アル可シト
 此前言ニ違ハス露國ハ遂ニ土庭ニ向テ開戦ヲ公告シ而シ
 其地ニ侵入シタリキ但シ此爭亂ハ何レノ時ニ止ムベキカ
 ニ至テハ之ヲ知ル能ハス然レモ今若シ一方ニ向テ露國當
 時ノ輿論ヲ熱察シ又々他ノ一方ニ向テ今日ノ國勢如何ヲ

願レバ更ニ難論スルヲ能ハサルニ件ノ存スルアルモノニ
 似タリ嘗テ東邦論ノ再發スルヤ露國ノ人民大ニ奮起シ如
 何ナル種族ヲ論セス皆ナ悲憤慷慨スル所アリタリ故ニ苟
 モ現今ノ爭亂ニ於テ露人ノ自愛心アムール精神ヲ満足セシムヘキ結果
 ヲ得ルニアラサレハ假令ヒ露帝ヲシテ平和ヲ熱望セシム
 ルモ其民情ニ籠絡セラレテ君士但丁ニ向テ勇進スル人民
 及ヒ其軍旅ヲ如何トモスルヲ能ハサル可シ故ニ假令ヒ歐
 洲各國ノ仲裁ニ因テ一時休戰ヲ約スルモ其期限ハ幾何モ
 ナカル可ク又タ假令ヒ炮聲ヲ聞カルルモ兵器ハ依然裝備
 セラル可シ但シ此爭亂ノ結果ハ露國ニ於テ頗ル凶結果ナ
 ル可シト世人ノ評スルハ虚言ナリトナス可ラス世人ノ見
 聞シタル如ク哥里米役ノ失敗以來露國ハ遽カニ開明國ノ

内ニ列セント欲シ而ソ外邦ニ在テハ幾世紀ノ歲月ヲ費ヤ
 シテ漸ク成功シタル改革ヲ僅々數年ヲ出テスシテ成功セ
 リ是ヨリシテ兵馬國幣商業ノ論ナク一トシテ愁息不滿ノ
 絶ルヲナカリキ然レ歳月ヲ積ミ漸ク平和ニ赴クニ從テ此
 等ノ疵傷ヲ療セントセリ今其一ニ二ヲ舉クレバ一國ノ財政
 ニテ歳入出ハ漸ク平均シ而ソ間々歳入ノ歳出ヲ超過ス
 ルヲアリ其他露國ノ官吏ハ露國ノ負債ニ屬スル紙幣ノ實
 貨ト同價ヲ有スルヲ廢スルハ近ニ在リト豫言スルヲ得
 ルニ至リタリシガ一朝此爭亂ノ起ルニ及ソテ露國ハ猶ホ
 數年ノ間其紙幣ヲ維持セザルヲ得ズ復タ歳入ノ欠乏ヲ生
 シタルノミナラズ且ツ施政者ヲシテ其希望ニ反シ改革ノ
 成功ヲノ躊躇セシメタリ此戰亂蓋シ速カニ局ヲ結ブヲナ

カル可ク且ツ其軍費ハ頗ル巨額タラザルヲ得ザル可シ又
タ其局ヲ結ブモ勝利ノ餘ニ出ツルヲナカラントス結局露
國ヲシテ兵馬ノ爲メニ蹂躪セラレタル數州ヲ併スルモ其
幸福ヲ増加シタルニアラザル可ケレバ猶ホ失敗シタル商
賈ノ其蓄ニ復シ其業ヲ再興セント欲シテ却テ破産人ヲ其
社中ニ入ル、ガ如シ

露西亞國勢論下卷 大尾

明治十二年七月九日 版權免許

譯述人

原 敬

出版人

東京竹川町十七番地
金子 精一

發兌書肆

東京竹川町十七番地
櫻 水 舍

東京芝三島町

山中市兵衛

同日本橋通三丁目

九家善七

同日本橋一丁目

稻田佐兵衛

同同

一丁目

大倉孫兵衛

同南傳馬町一丁目

吉川半七

同銀座二丁目

山中孝之助

同銀座四丁目

博聞社

同小傳馬町三丁目

吉岡十次郎

同本石町二丁目

椀屋喜兵衛

同芝口一丁目

牧野善兵衛

同大傳馬町三丁目

東生龜次郎

大坂心齋橋通備後町

吉岡平助

同淺草茅町二丁目

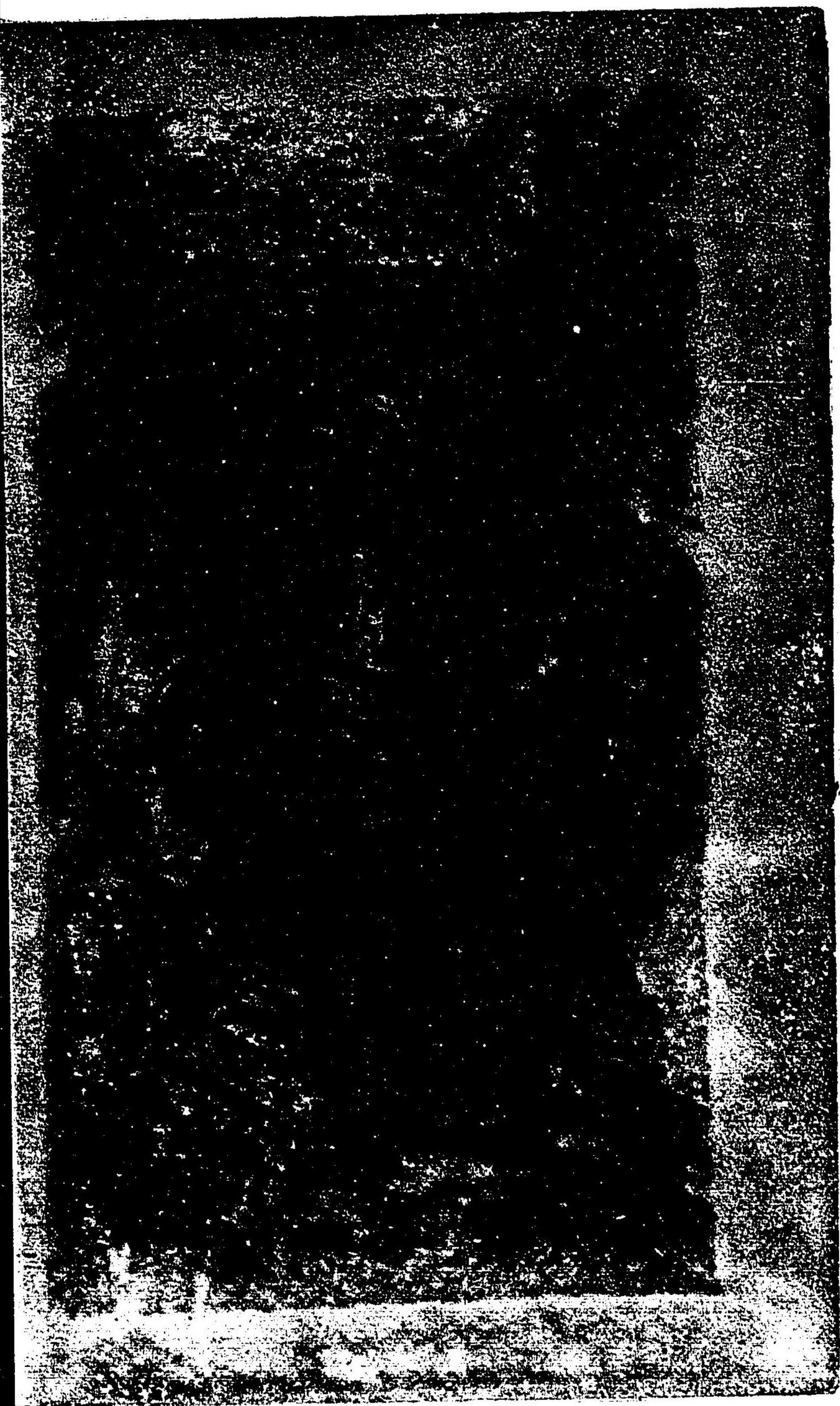
北澤伊八

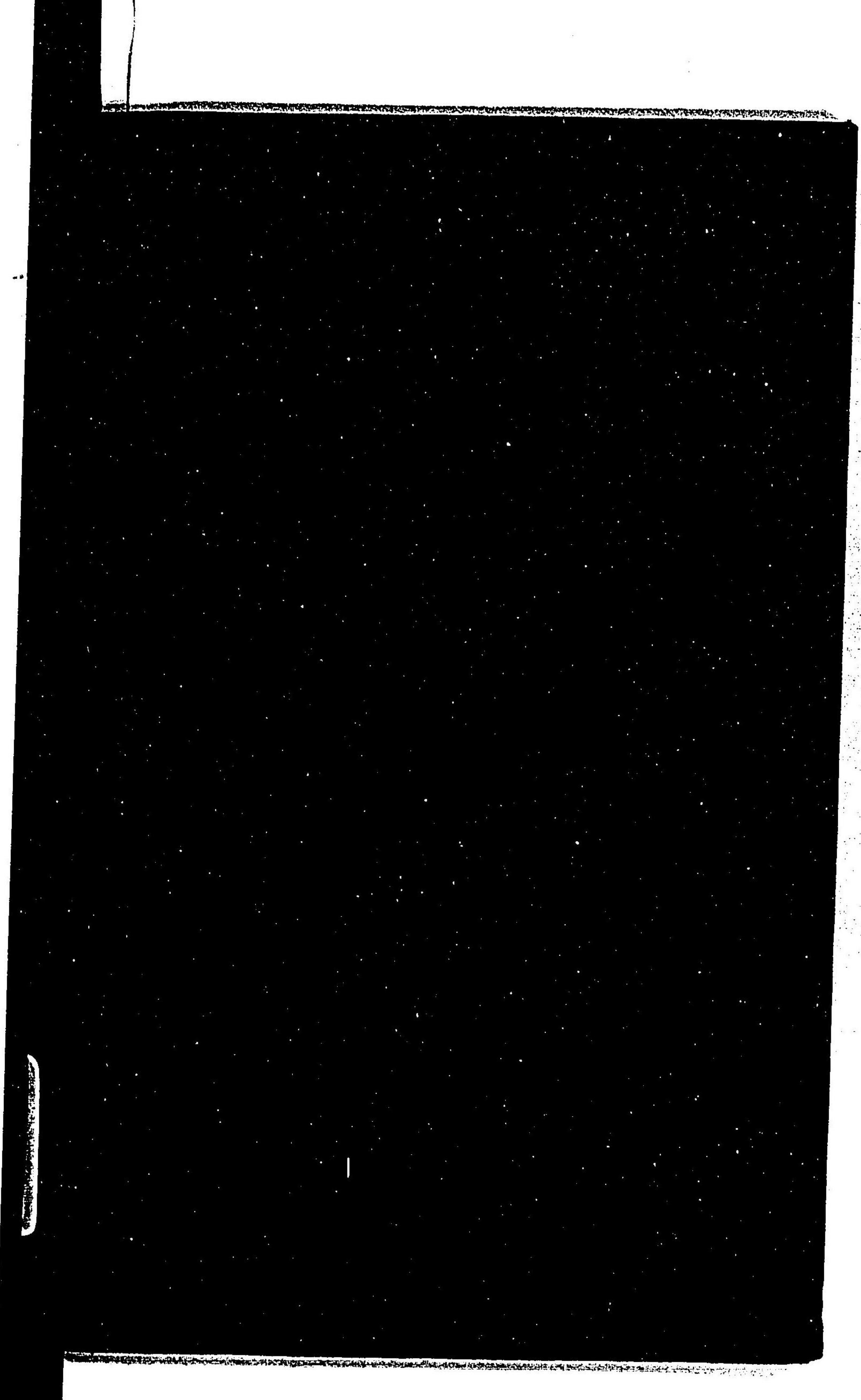
函館

魁文社

29

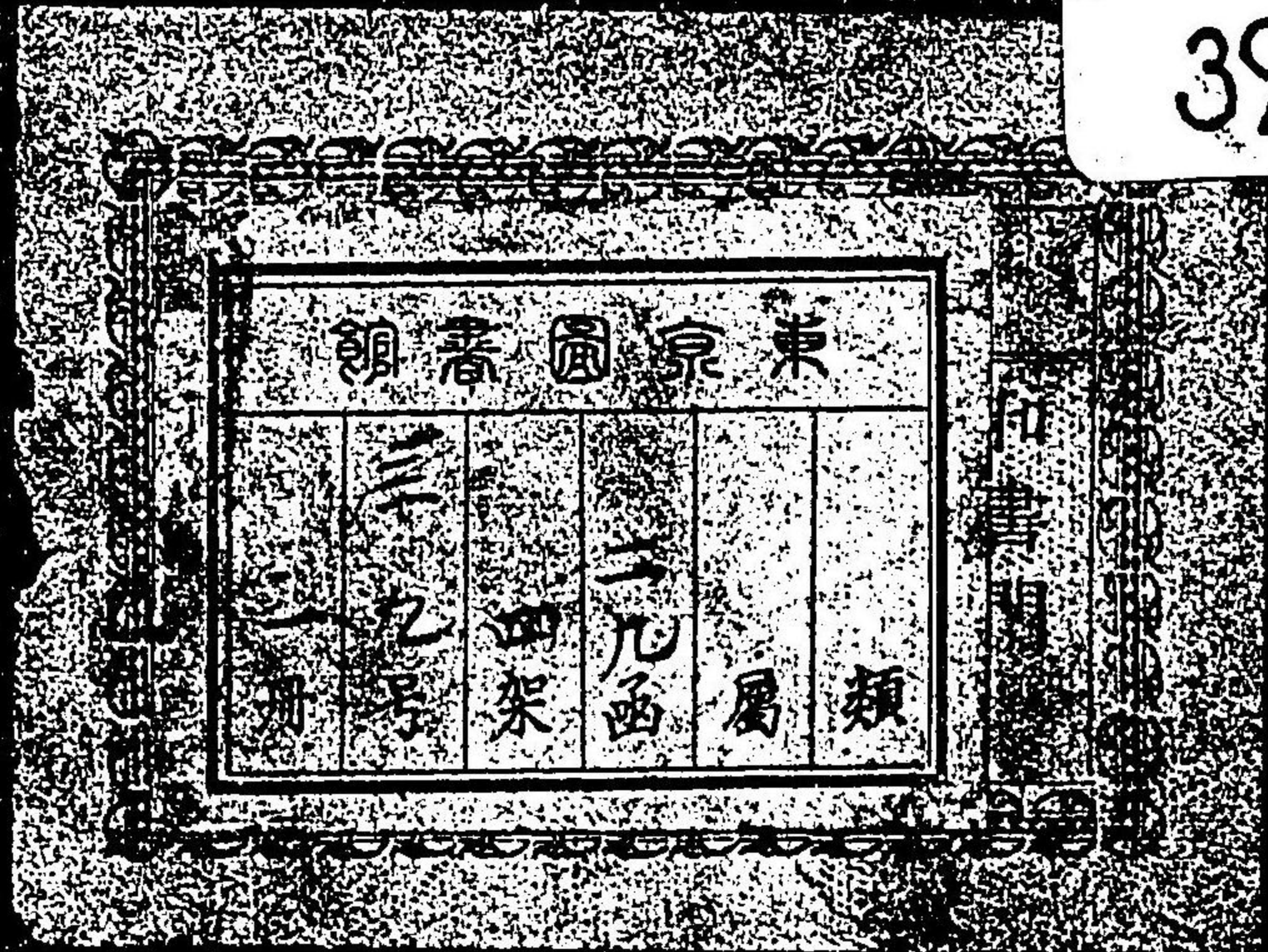
39





1

29
39



026875-000-7

29-39

露西亞国勢論

アナトール・ラングロア / 訳編

原敬 / 重訳

M12

ADF-0057



